

# はばたき

2015. No. 80

## 一丸となって



仲間が広がる。必ず大きな、大切な力となる。  
加わる人の努力、先輩からの導き、見据えるものは……  
一丸となって、進むべし。

千日 清



## 桜の頃に想う……

大久保学園 学園長  
中原 強

この地に障害を持った人たちが暮らし始めたのは昭和47年のことです。地域の皆様に支えられながら大久保学園が設立して44回目の季節が過ぎてしまいました。社会情勢が目まぐるしく変貌を遂げる中、社会福祉の法制度も時代背景に追いつくように整備され今日に至って来たように思えます。

その基本は、個人が住み慣れた地域において、人として尊厳を持ち、誰もが自立した生活が出来るように支えることにあり、そのために社会連帯の考え方に立った総合的な支援が行われるように見直しを繰り返されてきた。措置・支援費・自立支援法と激動の制度改革の中、現制度の総合支援法に到達しました。私たちは利用者・保護者と共にこの地域での暮らしを大切にしながら、これからは皆さんの想いを大切に基本理念を忘れることなく取り組んで行きた

いと思うところです。

私達法人の理念は、

1. 人権の尊重
2. 社会への参加
3. 人の立場に立ち、思いやる優しさ
4. 期待に応える

当然、これまでも法人が目指すところの姿勢は事業計画の中で全職員に謳われてきたところでありますが、職員の意識の中で繰り返し確認できるように心掛けています。

全職員がこの理念の意味を自ら考えて行動に移して行くことが大切と思っているところです。

開設当初、50名の利用者で始まった大久保学園でしたが、今では11事業を展開する法人となり、毎日、500名近くの人達にご利用頂くまでになりました。今、あらためて振り返ると、利用者・保護者・地域からのニーズに応えたい一心で事業展開を行って来ました。何か一つのこ

とに特化していくというより、総合的な視点を持たざるを得なかったのかも知れません。その時代が求めるニーズに職員が一丸となつて一つの事業を築き上げて来たのです。

本年度も障害者支援施設大久保学園、ふなばし工房、みらい工芸館、光風みどり園、東葛中部地区総合開発事務組合立みどり園の運営を柱に相談支援事業、就業・生活支援センター事業の運営に最善を尽くし、今後共「大久保があつて良かった」と言つて頂けるように努力して参る所存です。

今年の桜は例年よりも開花が早く、粘り強く舞つて行ったように思えます。表紙の写真は、本年度の新採用職員が辞令交付を受けた直後に撮影したものです。職員の確保が極めて困難な時代であるにも関わらず26名の職員が法人の一員となりました。この時から一ヶ月が過ぎた彼らは今、意気揚々とそれぞれの部署で利用者と向き合い、共に汗を流し始めました。社会人としての一歩を踏み出した職員をどう育成していくのか。先輩となる職員は振り返りが出来ているか。リーダーを担う職員

はモチベーションを持つて臨めているか。福祉は人なりとは良く使われる言葉です。正しくその通りであり、法人として人材の育成に将来を託していくことが肝要であると認識し実践して参ります。加えて、求められるサービスの質と量が高まる中、利用者と真摯に向き合い、その関係性に悩みながらも共感を深め、日夜表裏なく各自の業務に取り組んでくれる職員の存在が何より逞しく思えてなりません。

毎年、桜の頃には別れがあり、出会いがあります。そして、それぞれの事業所の在り様を凛とした気持ちで思い浮かべて見ます。そんな中で昨日と変わらない利用者の笑い声が聞かれて来るのです。桜は自由奔放な個性の持ち主です。不得手なところに手こずりながらも、最高の輝きを放つてくれる。その一瞬の輝き私たちは愛しさを覚えます。

利用者、ご家族が必要とした時に必要な福祉サービスが提供出来るように法人一体となった事業を展開して参りますので今後共、宜しくお願ひ致します。



矢野さん(左)と廣川さん(右)

この春厚生労働省より  
新任職員が宿泊研修をされた  
時の感想を寄せて頂きました。

厚生労働省 矢野 玲奈

大久保学園の研修では、3日間と短い時間ではありましたが、何物にも代えがたい貴重な経験を得ることができました。お忙しい中研修を受け入れて下さった大久保学園のみなさまに、改めて深く御礼を申し上げます。本当にありがとうございます。

この研修で、障害者福祉の実現のためには何が必要なのか、考えさせられました。

まずは、「働くこと」は障害の有無に関係なく、暮らしの充実のために大切なものと気づきました。利用者の方がいきいきと、そしてまじめに仕事や活動に取り組む姿にはハッとさせられました。もう一つは、「人との暖かな関わり」です。学園のみなさんは、互いに打ち解けた、対等なやりとりで関わっておられ、家族のような信頼関係を感じました。また、私たち研修生に対して明るく沢山話しかけてきて下さるのを見て、色々な人と出会いたい、話したいという欲求は、誰しも持っている人間らしい欲求なのだと思います。

しかし、障害者の方の「働くこと」や「関わり」の実現にはいくつもの課題があることも認識しました。例えば、せっかく就労に繋がってもなかなか継続しないこと、問題が起これる前に予防的ケアを行うにはとても人員が足りないこと、地域の方とよい関係を築くには地道な努力が要ること……。更に、職員の方のすばらしい仕事ぶりに感銘する一方で、仕事の大変さにも驚きました。福祉・介護分野の離職率の高さや人材不足が指摘されて久しいですが、実際の現場を見て大変さを実感し、利用者の方と職員の方の両者のために、福祉・介護分野における働きやすいシステムづくりが不可欠だと痛感しました。

今回大久保学園で様々な経験をさせて頂き、改めて、人々のより良い暮らしのために役に立ちたいという覚悟を新たにしました。これから行政官として勤めるに当たって、現場との繋がりを常に意識し、意義ある政策を立案、実施していきたいと思えます。これからもどうぞよろしくお願致します。

厚生労働省 廣川 晶子

先日、研修の一環で大久保学園に2泊3日お世話になりました。職員の皆様、利用者の皆様が共に温かく迎えて下さり、大変充実した研修となりました。有難うございました。

私は障害のある方と長時間触れ合うのは初めてでしたが、障害を頭では理解していても戸惑いが生まれてしまうのではないかと不安に思い、緊張もありました。しかし研修を終えた今は、その間利用者の方々と心を通わせた一瞬一瞬が宝物です。

話は変わりますが、そもそも私が職業選択において重視した言葉は、「笑顔」です。多くの人が「笑顔」で生活でき、笑顔が笑顔を呼ぶ日本にしたいと思い、この職業を選びました。大久保学園には利用者の方々の笑顔があり、笑顔は自然と私の緊張を解いていきました。私たちが宿泊させて頂いた単独棟にいらっしゃった利用者の方々は、笑顔で私たちを迎えて下さり、「また来てね」と送り出して下さいました。

印象的だったのは、その利用者の方々の笑顔を引き出している職員の方々の笑顔です。皆さん利用者想いの素敵な方ばかりで、利用者の方々の呼びかけに笑顔で応えていらっしやいました。笑顔と笑顔で心が通い合っている瞬間を多く目にしました。

全国各地、すべての施設で大久保学園のような笑顔溢れる環境の土壌をつくるのが行政の仕事であると考えております。各施設での笑顔がなければ、私たち行政の責務は果たしたことになります。今後、社会福祉の分野は価値観の多様化、高齢化に伴いこれまで以上に高い壁に向かっていかなければならないと、研修を通じて改めて感じました。そのような中で、現場と行政は単に役割が異なるだけでなく、両輪となってその高い壁を乗り越えて行く必要があります。大久保学園の利用者の方々の笑顔、そして職員の方々の笑顔をお忘れず、今後業務に励んでいきたいと思えます。

最後になりますが、様々な御配慮頂いた学園長や施設長、御指導頂いた全て職員の方々に改めて感謝の意を表し、結びの言葉と致します。本当に有難うございました。

# ペンシルバルーン

光風みどり園

光風みどり園では27年の1月から、船橋ボランティアセンターに依頼して活動日の土曜の午後に来園して頂き、様々な活動をしています。ボランティアセンターに問い合わせたところ多くの団体が登録しており、30を越す活動内容がありました。囲碁や踊り、演奏、コーラス、アニメセラピーなど、人気のある団体は2〜3ヶ月前に予約をしないと来て頂けない事もあるそうです。

実施当日までに多くの団体の中から希望団体を選び、センターに申請します。参加のお返事が頂けると事前の面談を組み、担当者の方に園内の活動スペースや物品等の確認をして頂き、当日を迎えます。来て頂くボランティア団体の方も色々な施設に来て披露した経験のある方が多く、雰囲気やリアクション等も「ある程度イメージが出来ます」と心強い回答です。初めて声を掛けさせて頂いたのはリズム体操をしているご婦人でした。

土曜の開所日には通常50名強の出席があるのですが、光風みどり園の長い廊下には、ほぼ全員の方が集まって体を動かす事が出来ました。また保護者の方々にも参加して頂く事が出来ました。



今までにリズム体操、マジック、ハワイアンダンス、ペンシルバルーンの活動を行ってきました。4月に行ったペンシルバルーンでは様々な形のバルーンを作っていました。風船を恐がる利用者も勿論いません。席には付いていましたがキシキシねじられる風船の前に、耳に手を当て目を細めながら出来るのを見守っていました。ですが作品が出来ると自分の分をしつかり確保して持ち帰り用のビニール袋に入れていました。また一人で4〜5つの作品を大事そうに抱えて帰る利用者もいました。色も多彩でとても華やかな時間になりました。

今では「次はどんな人達がくるの?」「次は〇〇を呼んで!」等の声も聞かれるようになりました。これからも利用者さんの笑顔を作り出すために、土曜の午後のひと時を計画していきたいと思えます。(入澤)

# BBQ大会を終えて

大久保学園

5月4日(月)に大久保学園の園庭にてバーベキュー大会を行いました。目的は連休の最中、利用者に楽しい一時を過ごしてもらおう事にあります。

当日は強風ではありませんでしたが日差しがよく、9時から準備が始まりました。楽しみにしている利用者さんは颯爽と外へ出てきて、進んで一緒に準備を手伝ってくれました。11時半から腕っ節の良い、大久保学園の男性職員が利用者の目の前で「焼肉・ウインナー・焼きそば」を調理し、若手職員や新任職員がウェイター、ウェイトレスとなつて張り切りました。

続いて12時半からはレクリエーション大会を行いました。一つ目の種目はスタンプラリーです。これは園内に新任職員にスタンプを持って隠れてもらい、利用者には配布されたスタンプ用の台紙12か所を全部埋めて戻ってくるといった内容です。堂々と歩いている職員、細い隙間に隠れて誰にも見つからない様になっている職員と、新任職員も十人十色でした。制限時間は20分設けていましたが、利用者の皆さんは苦戦して10分延長しました。約80名中15名ほどがスタンプを全て揃え、戻ってくる

ことができました。そのあと二人三脚、ポリング、輪投げ、玉入れ、借り物競争、スポーツチャンバラと行っていききました。利用者も職員もたくさん種目に参加ができ、楽しい時間を過ごすことができましたよです。(飯田)



# 憶 記 る 辿

## ずっと、支援員として生きていきたい

みどり園 伊藤 純永



私が障害者施設の生活支援員になろうと思ったきっかけは、とてもありふれています。大学3年生の時に現場実習を経験させていただいたことでした。大学では社会福祉を専攻しており、福祉に関する制度や法律、

理論等を講義で学んでいましたが、正直に言うと机上の学問ではピンとこないことが多く、面白くないと思っていました。そんな時、約一ヶ月知的障害者の入所施設に泊まり込みで実習させて頂きました。そこでこんなに楽しい仕事があるのかと思い、実習後も現場で支援員として仕事を自分の姿を想像するようになっていました。実習以前は「知的障害者の方と接する機会がなくとも人と人見知りがない上に、口下手な自分が一ヶ月近くも泊り込みで実習なんてできるのだろうか」と不安でしたが、目を重ねることに利用者の皆さんと打ち解け、楽しいと思う気持ちの方が強くなっていきました。知的障害者の方がもっている魅力というよりは利用者一人一人の個性に惹かれていったという感覚が強かったと思います。どの利用者の方も自分から歩み寄って下さり、実習が始まったばかりで右も左もわからなかった私はその優しさに本当に救われました。利用者の皆さんと喜怒哀楽を共にし、誰かのためにあれこれ悩んで体を動かして、利用者と一緒に生きていく、こんなに大変で楽しい仕事があるでしょうか。みどり園で勤務し、気がつけば14年ほど経っていました。支援を行う上で思っただけではどうにもならず悩んだこともたくさんありましたが、今もこうしてみどり園という現場で支援員を続けています。一児の母でもある私には家庭とこの仕事との両立が時間的にも体力的にも大変で、この仕事を辞めようと思ったことも何度もあります。しかしながら、こうしてこの仕事を何とか続けてこられたのは、みどり園の利用者の皆さんが好きだからです。願わくばずっと一人の支援員として、利用者支援に携わって生きていきたいと思っています。

## 振り返れば

ふなばし工房 江澤 智子



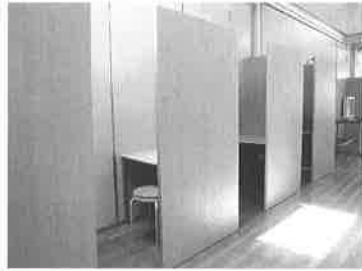
この原稿を書かせて頂く事になり、久しぶりに15年前の事を思い出す事となりました。私が入社したのは2000年の4月、当時の私は大学で農学部農芸化学科を専攻し植物栄養・肥料学研究室に入りました。

その学びには打ち込まず、テニスのサークル活動に明け暮れる日々、クッキーを焼いてくれる母親像への憧れから始めた趣味が高じてパン屋でアルバイトをする等、あれこれ夢中になりながら結局どれも中途半端で終わっていました。そんな私も卒業後の事を考えた時、小学生の頃クラスに自閉症の友達がいいた事や支援学級で関わる人達の後姿を見て、いつか自分が同じような事が出来ればと心の片隅にあった気持ちが徐々に強くなりました。周囲の反対はありましたが、福祉関係の仕事に就く事を決意しました。友達は企業への就職活動を始めている中、私はヘルパー2級の資格を取りました。秋頃から始まった就職説明会に行き、そこで福祉の仕事の多さや奥深さを知りました。友達に福祉関係へ就職する人は当然いなので相談する人もおらず、「さて、じゃあどうしよう。」と悩みながらの日々でした。

そんな私は、大久保学園の採用試験に奇跡的に合格しました。入所施設で1年間働き、次にふなばし工房の食品加工班に異動となりました。食品加工班ではパン屋でのアルバイト経験や、大学で学んだ発酵学や食品化学等が生かすことができました。更に大学の研究室でサンゴ砂によるトマトの水耕栽培を行っていたので、農園で水耕栽培をはじめるときに研究室の中林先生を紹介する事が出来た事等、これまでの経験が役に立ち、どこか運命を感じて仕事をしています。そして、振り返ると何も分からない私を色々な方々が支えて下さったからこそ、今もこの現場で働く事が出来ているのだと、感謝の記憶が巡ります。

# それぞれの施設だより

## 大久保学園



現在日中活動班は六班により構成されています。その中の一つである室内班の作業内容は、業務用一斗缶のキャップ加工、子供向けの雑誌の袋詰め作業を行っています。そこで取り組む利用者

皆さんの活動場を過ごしやすく意欲的に参加出来るように以前からハード面の工夫をしてきましたが、昨年個別スペースの設備を導入しました。室内班のフロア内に一人で過ごせるスペースを確保しました。導入当初は使用する方々を決めて、周囲の声や人の動き等、環境の変化を苦手とする方々優先的に提供して行きました。効果は直ぐに現れ以前は耳を塞ぎ大声を出していた方が落ち着き集中して取り組める様になりました。さらに数ヶ月経った頃には、個別スペースから集団の輪の中で普通に活動が出来る様になっていました。(本人が自らの意思で行動し、皆の中で活動している姿にとても驚いた事を覚えています。現在、本来の使用目的と並行して、様々なニーズに対応出来るよう個別スペースを自由に使用して頂いています。それにより個別のスペースで休憩する、気分転換を図る等フリースペースとして使用する方が増えて来ていますので、引き続き有効的に活用していきたいと思っています。これからも利用者さんや保護者の方々又は地域の関係機関から、大久保学園の日中活動は過ごしやすい環境と毎日意欲的に取り組める質の高い活動班であると思っ頂ける様努めていきたいと思ひます。(会田)

## ふなばし工房



今年もゴールデンウィークはおかげ様で大忙しでした。ごどもの日といえはこいのぼり”と言うことでたくさんさんの施設からこいのぼりパンの注文が毎年入ります。また、ごどもの日と言う事はゴールデンウィークでもありません。皆さんご存知、我が法人大久保学園のお隣にありますアンデルセン公園様からはたくさんさんのクッキーの注文を頂きました。この他にも各直売所に卸すパン・お菓子・ジャム等の加工を、私たちふなばし工房食品加工班では利用者・職員一丸となつて行いました。私たちの作った商品を食べ、たくさんさんのお客様が満足したゴールデンウィークを過ごして頂けたらと思ひ毎年加工を行って頂きます。今年も子供たちの笑顔の花がたくさん咲くごどもの日になる事を願ひこいのぼりを揚げる様に、こいのぼりパンを焼き上げ大好評を頂きました。(山元)

## 光風みどり園

雨と共に始まった新年度、桜の開花と晴れの日を心待ちにし、27年度の光風みどり園がスタートしました。今年度は3名の新しい仲間、山崎源太さん、菅谷一沙さん、森内健太朗さんも加わりました。一日も早く新しい生活に慣れ素敵な時間を園の仲間と共に過ごし、多くの楽しい思い出を積み重ねていって下さい。

さて、新年度最初の光風みどり園行事は“お花見”です。雨の続く中、天候への期待と不安を抱えながら迎えました。当日の予報は曇りのち雨で朝から小雨の降る中、皆の気持ちがあたまで届いたようで、昼間近には雨も止まりました。強い風に負けることなくお花見の当日に一番美しい姿を見せてくれました。光風みどり園の美しい桜と共に、園庭には利用者の笑顔も満開となり、クイズに手を挙げていました。利用者の皆さんが楽しんでる様子が手に取る様に実感できました。こうして27年度も楽しい思い出を積み重ねていって頂きたいと思ひます。(福田)



## みどり園

大久保学園が指定管理として運営を引き継いでから、2年目が始動しました。4月から新たな職員も加わり、1人ひとりが様々な決意を抱きながら迎えた春です。また、今年度は梅と桜に続きユニットA前の芝桜も綺麗に咲き揃い、華やかな春の訪れとなりました。

昨年の6月から始まった日中活動も、新体制となつて動き始めています。今年度は、陶芸班、造形班(キャンドル)の製品販売開始という大きな目標があります。他の作業班もそれぞれに計画を立て、目標達成に向かって利用者と職員が一丸となり活動していきまます。

私自身、今年度は園芸班に配属になりました。ユニットの周りや作業に向かうふれあいの小路に、たくさんのお花を植えていきます。自分たちが育てた花で園内を彩り四季を感じ、利用者に気持ちよく過ごしていただける環境を提供していきたいと思ひます。利用者と共に、笑顔で楽しんで活動して頂きたいと思ひます。(和栗)



地域生活支援センター

大久保学園障害者就業・生活支援センターが開設してから、昨年の11月で5年目を迎えることとなりました。職場での定着支援を中心に安定した就労を継続する為の生活支援といった、一体的な支援サポートを行って参りました。関わるケースについても発達障害の方や難病疾患の方等からのご相談もあり、相談者の幅も広がっている現状にあります。

さて、昨年度末の3月18日に就業・生活支援センター主催の第2回地域意見交換会を開催しました。障害者雇用を進めている企業3社を迎え、パネルディスカッション形式にて講話を頂きました。特例子会社での取り組み・支援体制について・地域に根差した取り組み等、3社それぞれに特徴のあるお話があり、ご参加頂いた皆様の今後の就労支援に少しでも役に立つことのできる意見交換会であればセンターとしてとてもうれしい所です。

改めて関係者の皆様に、御礼申し上げます。今年度も変わらぬご指導・ご鞭撻の程、宜しくお願い致します。(矢吹)



相談支援事業

今年度も何卒よろしくお願ひ申し上げます。相談支援事業に取り組み始めて1年が経過しました。最近になって相談支援ならではの仕事の醍醐味とでもいうのでしょうか、そんなことも少しずつ感じるようになってきた今日この頃です。

アセスメントを通してその人が送ってきた人生やご家族様の思い等々伺っていくと、不思議とご家族様の思いが映るのでしょうか、日々現場で支援している時とは違う気持ちたちが湧いてくるのが分かります。何となく利用者様を遠巻きに見ながら近くに感じ、大切な存在に感じるようになりまして。



グループホーム

平成3年に法人が始めて立ち上げたグループホームとして船橋・金堀ホームが開所され、利用者8名での生活が始まりました。それから14年経った今では14箇所のホームに74名の利用者が生活しています。設備面でも全ホームにスプリングクーラー設置を行う等、14年間でグループホームも大きな変化を見せました。その中でも平成16年に開所した大穴ホームがこの度全面建て替えを行い、新たに生まれ変わります。平成27年1月から着工し、その間住んでいた4名の利用者は仮住まいへと移り、生活をしていました。



住み慣れた家を離れるのは寂しい気持ちもありますが、新しい家に住むことへの楽しみと期待で満ち溢れています。そして約4ヶ月の工事を終え、5月下旬に新居への引越が決まります。綺麗な家をいつまでも維持できるように、利用者の皆に快適な生活を提供出来るように今年度も職員一同一生懸命頑張らせて頂きます。(森川)

通所

先日通所班の皆さんでアンデルセン公園に行ってきました。いつ訪れても綺麗な花々が出迎えてくれます。その光景を目にした利用者も、花々に負けないぐらいの満面の笑顔で応えていました。園内を散策していると、花の手入れをしている方をたくさん見掛けました。このような方々の存在があるからこそ、花は花らしく輝く事が出来るのだと感じ、公園を後にしました。

支援員の仕事にも近いものがあるように感じます。利用者がその人らしく持つている可能性を十分に発揮できるように常に考えています。コミュニケーションを取り、生活環境を整えていき、利用者からのメッセージを汲み取って、より良い支援を目指していきます。これらを支援の基本に据えて、日々利用者に向き合っていきたいと思えます。(内山)



# 人事往来

## 新規採用者

大久保学園 12名  
 ふなばし工房 7名  
 光風みどり園 3名  
 みどり園 14名

## 異動職員

古迫 拓海 大久保学園  
 村尾 依子 大久保学園  
 田中 邦昌 光風みどり園  
 平柄 友章 光風みどり園  
 加瀬 史仁 みどり園

## 退職者

阿部 成志 大久保学園  
 平野 真子 大久保学園  
 佐藤 広美 大久保学園  
 小倉 淳史 大久保学園  
 佐藤 友里恵 大久保学園  
 三須 奈緒 大久保学園  
 森川 千明 大久保学園  
 齋藤 真紀 大久保学園  
 山本 行秀 大久保学園  
 天野 真史 大久保学園  
 千葉 倫代 大久保学園  
 飯田 富美江 大久保学園  
 京増 隆太 大久保学園  
 島田 真 大久保学園  
 原口 可奈子 大久保学園  
 松田 あかり 大久保学園  
 中谷 千鶴 大久保学園  
 稲垣 公亮 大久保学園  
 永森 央 大久保学園

## 新任職員の想い



大久保学園 和田 里美

幼い頃から障害を持った子との関わりが多かったこともあり、大きな迷いもなく福祉を学ぶ世界に入りました。数年前に大学を卒業し、在宅ケアの事業所で忙しくも有意義な数年を過ごしました。

そこで就労を含め、相談員を目指すきっかけとなった自閉症の女の子に出会いました。支援をする上で沢山の苦労がありました。一年一年彼女なりの確かな成長を見る事ができました。そして、その成長を見逃さず、必死に彼女の自立を目指そうと後押しする彼女の母親の姿もありました。「出来ないことも多いけど、出来ることを活かして自立してほしい」と不安を感じながらもいつも前向きに彼女の将来を考えていました。その家族と出会ったことで障害を持った方の社会での生きづらさや家族の想いを知ることができました。この経験を通して「障害についての学びを深めたい」「自立の為にサポートがしたい」と思い、自立に向けて幅広く支援をしている大久保学園への入職を決意しました。

私自身、社会人を経験して沢山の出会いや学びがあり、そこでの出会いでやりがいや目標を見出すことが出来ました。就労を通して一人でも多くの方が同じようにやりがいや生きがいを見つけ、自立した生活が送れるよう支援したいと思います。また、ご家族の不安や想いにも寄り添った支援が出来るよう努力していきたいと思っています。

入職して数ヶ月、沢山の笑顔に囲まれて仕事ができること、本当に嬉しく思います。



## 行事予定

<b>4施設全体行事</b>	7/29~30 定期健康診断
<b>大久保学園</b>	8/8 保護者会
	8/9~16 夏休み
<b>ふなばし工房</b>	8/13~16 夏休み
<b>光風みどり園</b>	7/11 胸部レントゲン撮影
	7/13~16 夏休み
	7/18 納涼祭
<b>みどり園</b>	8/9~16 夏休み

## 寄付金

「後援会」  
 大久保学園後援会

ありがとうございます

平成二十六年九月二十五日  
 平成二十七年五月十日



今年度より編集を担当させて頂く飯田です。分かりやすく、

読みやすい「はばたき」を作成していきます。

## はばたき

二〇一五 八〇号

発行/平成二十七年六月  
 発行所/社会福祉法人 大久保学園

TEL 〇四七(四五七)二四六二  
 FAX 〇四七(四五七)四〇六九  
 URL http://www.okubogakuen.or.jp  
 Mail shienka@okubogakuen.or.jp

編集/大久保学園 広報委員会  
 表題書/大久保学園長 中原 強